第 2019-44 号

# 恵みと真理のニュース

2019 年 11 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

## ［証］

## 悔い改めを通して神様の愛と恵みを深く悟ってくださり、徹底的な神本主義の人生を生きるように導いてくださる神様に感謝します。

私はアンサン聖殿で青年奉仕宣教会の青年区域長として、教会学校では幼年部教師として奉仕し恵みと真理教会を仕えている27歳の青年です。私が1歳の頃から母が区域長の伝道でイエス様をを受け入れ神様を信じる生活をはじめました。私も母をついて生まれたばかりの弟と一緒に教会に通いました。
大学で食品栄養学を専攻して2年生から就職のため神様に祈り一度に大企業の栄養士で仕事をするようになりました。私が願っていた所より最も良い会社でした。どころが、ある日から私の心に神様に対する感謝をしなくなり、高慢になりました。中間管理者になって過度な業務と責任感とストレスが重なって毎日が夜勤と早朝出勤によって心と体が疲れ果てました。朝9時出勤して次の日、今朝8時に退勤する日が多かったです。中学生から参席した平日礼拝を捧げることも大変になりました。入社して3年次になって新しい事業場に発令を受けましたが、相変わらず過度な業務で疲れてしまい平日の礼拝に参席できませんでした。
酷い精神的なストレスでうつ病、不安症、睡眠障害と顔に麻痺が来る症状まで出来て私は退勤したら部屋に入って来なかったです。その時から深く退社について悩みました。礼拝を捧げなくなり、後ごろがすさむようになり、体も毎日のように痛くなって病院を自分の家のように行きました。主日、教会学校奉仕に熱情的に仕えなく体が疲れているという理由で土曜日の青年礼拝の集まりにもよく休むようになりました。決心して2017年12月31日から会社を辞めました。まず、神様を信じる信仰の態度から立ち直るため聖書の御言葉を創世記1章から黙想し始めました。アダムとエバが神様の命令に不従順し罪を犯して、
エデンから追い出されたとき、神様が彼らに皮衣を着させた節を読みながら限りなく涙を流しました。神様が私をどれほど愛しているか、御言葉を通して新しく悟りました。聖書を読むたびに読む者に聖霊様が毎度新しく悟りと喜びを得るように感化、感動を確実にくださいました。毎日、御言葉の恵みを愛し熱心に聖書を読みました。
2018年1月　青年奉仕宣教会の冬修練会に参席しました。説教の中で御言葉の一節一節が私の心に刺しました。今まで神様の心を痛ませたと思い出しました。3年間の職場生活と信仰生活の姿が通り過ぎました。私が神様に背いて見上げなく高慢に生きて来たのを悟り、とても恥ずかしかったです。特に国の問題に関連しても聖徒 らしくない考えて行ったことを徹底的に反省して悔い改めるようになりました。行われたすべての順序ことに神様が私に恵みをたくさん与えてくださいました。牧師の特別講義を聞きながら今まで私が好きで従った観念と思想が神様を敵対したものだったのを悟るようになりました。静かに聴く特別講義時間に私の泣き声が妨害にならないのか、静かに泣きました。神様の前で恥ずかしくて首を上げなく涙だけ流しました。続いて決めた祈りの時間も足りないほど閉会礼拝まで二泊三日まで神様の前に赦しと慰めを求めながら祈りました。
そのように涙の祈り、異言の祈りを終えると私の心には感謝と喜びが満たされました。修練会に行く前、御言葉で悟ってくださった神様の愛を実際的に感じ体験することが出来ました。神様の哀れみと愛に感謝しながら感激しました。そして、神様がこれから私をどう用いてくださるか、新しい期待感と希望で胸が熱くなりました。職場を辞めなかったら悟られなかった恵みだったので退社した後、持っていた新しい職場とこれからどうしたらいいのかに対する心配と不安がなくなりました。
2018年10月、いつものように平日礼拝に参席して祈りをする私の心に主の喜びのためもっと献身したい願いが出来ました。続けて祈りをする中で神様が私に具体的に青年区域長の職分を愛するようにしてくださいました。その当時、私は人見知りをする性格だったので青年奉仕宣教会の集まりと礼拝に参席するのが容易ではなかったです。たまに、青年達の礼拝に帰って来たら肩と首がこって何もできないほど体力消耗が大きかったです。そして、初めは私が区域長の職分を愛し祈りをするのはあり得ないと自ら考えました。しかし、このような心までおろして、祈りをすればするほど神様はもっと良い職分を愛するようにしてくださいました。それで、私は“主よ。主が希望を下さり、愛するものなら他の人を通して勧められ、私の人間的な欲ならすぐやめるようにしてください。神様の御旨になるように願います。”と祈りました。
そして、2週が過ぎたとき、青年奉仕宣教会の担当教役者が長期欠席者達の対象で電話をしながら驚くほど、私に青年区域長の職分を預かって献身するように勧めました。以後、面談などのをして祈りの時間を持った後、青年区域長の職分を受けました。職分を担えながら青年をはじめ聖徒達を主の目線で見て主の心で愛し、不信者の魂をもっと憐れむようになりました。主の愛で愛するのがどんな意味か、主の中で一つになるのがどんなことか知るようになりました。信仰が弱くて苦難にあった青年のため私の事のように仕えるようになりました。知識も能力も足りない私にこのような尊い使命を与えて用いてくださる神様の恵みに感謝を捧げます。
神様は教会学校の奉仕も単純に子供たちがかわいくて、子供たちが好きで奉仕するのではなくて未来教会の柱になり社会で光と塩になる役割を素晴らしく担えるのを願い、責任感と使命感を持って聖書の価値観と歴史観と国家感をどう教えるか悩みお祈りをする中で青年153プロジェクトの"聖書で眺めよ。”家庭と北朝鮮宣教会で“韓国を正しく知るアカデミー”を履修しました。そうして、私が悟って知ったのを子供たちに伝えて祈っています。
このように私の人生の方向と目的が変化され自然に職場も高い給料と良い福祉と良い評判ではなく礼拝中心の生活をする職場、信仰生活に妨害されない職場に通うのを願い神様に祈りました。そうする中で、以前の会社を辞めてからちょうど1年になった享年12月の末、私が卒業した高校で栄養士として勤務するようになりました。我が教会のすべての平日の礼拝に参席することが出来て、教会の奉仕のため熱心に準備をすることが出来る職場を予備して導いてくださった神様に感謝します。校長と教頭をはじめ真実な様々な先生達と親達が私のため祈ってくださり、共にしてくださって楽しく働いています。人本主義の考えと思想を捨て、神様の御言葉と神様の御旨に従って考え行う神本主義の信者になるように変化させてくださった神様に感謝を捧げます。礼拝中心、教会中心の生活で生きながら楽しく信仰生活をするように恵みをくださった主を賛美します。天国に行くその日まで相変わらず、主を愛しながら主のため完全に私を献身をするように人生になるように願います。ハレルヤ！

## ［信仰コラム］　生涯を要約した文（3）

**"変わらない真実をもって，わたしたちの主イエス･キリストを愛するすべての人々に，恵みがあるように。"（エペソ人への手紙 6:24）**

平坦な一生であり険難な一生であり人は神様との関係如何に従って彼の一生が空しくて無意味になったり、福のあって価値があるようになります。滅びられたり救いを得たり二つの中で一つになります。そして彼が一生を神様に向いていかに生きたかによって天国で得る賞と光栄が決定されます。聖書にはこのような差等に関して記録された御言葉が多くあります。従って私達は目標に向いて力を尽くさなければなりません。
"生涯を要約した文"がその目標に該当されます。
"彼は主イエスキリストを変わらなく愛しながら生きた。"と要約される生涯に対して調べてみます。
アダムの子孫である全ての人は神様との関係で罪人として出生するようになりました。罪人は神様の怒りの下にいて、死と同時に地獄刑罰に処されます。しかし哀れみ深い神様が罪人を救うために驚くべきな計画を立てられてこれを宣布なさいました。"だれでもキリストにあるならば，　その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った，見よ，すべてが新しくなったのである。"としました。
このような変化は人の方法と努力でできるのではなく、全的に神様の恵みによる変化です。"だれでも新しく生れなければ，神の国を見ることはできない。"とイエス様が直接言われました。十字架に釘付けられて死なれることで人間の罪を贖われたイエスキリストを信じる人は罪のぬぐいを受けて聖霊で再び生まれる変化を被ります。これは魂に起きる変化であり本質的な変化です。"神はそのひとり子を賜わったほどに，この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで，永遠の命を得るためである。"としました。
生まれ変わる変化を被った人々に従うまた他の変化があります。それは主イエスキリストを愛するようになる変化です。神様に向いた信仰には三つの要素があります。知識と信仰と愛です。神様に対する知識があっても信仰がない人がいます。信仰があるとは言うが、主に向いた愛がない人がいます。主に向いた愛がないとしたら彼が話す信仰と知識は無駄なことです。聖書通りに神様を知って信じると主の愛に感激しない人はいません。主に向いた愛が心の中から湧き出ます。主神様に向いた愛は神様の愛を体験することで生じます。神様の愛の中で最も強烈な愛はイエスキリストを通じて現れた愛です。罪の中で生きて死に、滅びに処される罪人を救うために神様が独り子をこの世にお送りなさった愛そして神様の思いに完全に従って私達の罪を担い十字架に釘付けられて死なれたイエス様の愛は人間の理解を超越する愛であります。
イエス様の弟子ペテロはイエス様がどなたであるかを知っていました。"あなたがたはわたしをだれと言うか？"というイエス様の問いに直ちに"あなたこそ，生ける神の子キリストです"と答えました。しかしペテロは審問を受けられるイエス様を知らないと公開的に否認しました。しかし彼がイエス様を愛する心が変わって否認したのではありませんでした。ペテロは自分の身持ちが嘆かわしくて外に出て痛哭しました。ペテロは海辺で弟子達と共にイエス様に会い、主に対する愛を告白したその日の以降イエス様を信じて福音を述べ伝えることによっていかなる犠牲が求められても嫌がりませんでした。結局ペテロは主に対する変りない愛を殉教として表せました。誠な愛には犠牲も辞さない行動が従うべきです。イエス様の 12 人の弟子の中でイスカリオテのユダの除いた弟子達は皆我が主イエスキリストを変りなく愛する者になりました。
皆さんの生涯は"彼は神様を喜ばせながら生きた。"、"彼は神様が命じられた通りに全て従いながら生きた。"、"彼は主イエスキリストを変りなく愛しながら生きた。"と要約できるよう祝福します。そのような生涯になるとしたらそれ以上願うことがありません。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

# 好きなものと愛するもの

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

好きだという言葉と愛するという言葉は、どんな対象に対して肯定的な感じと姿勢を形容する言葉です。好きだという言葉はある対象に対して良い印象を持つことを意味します。愛するという言葉はある対象を大変で大切に思うことを意味します。この二つの言葉は、情緒上でほぼ同じ心情の表現でもあるが、時には著しい違いがあります。好きなことは犠牲が全くあるいはあまり必要ではありません。ところが、愛するには必ず犠牲が伴います。愛と犠牲は不可分の関係にあります。

イエスの弟子たちは、召されたその日から、イエスを愛していました。正確に分析して言えば、彼らはイエスが好きなので連れて通いました。

しかし、彼らはイエスを本当に愛したのはイエス様が復活された以後です。弟子たちは、イエスの召しを受けられた後、3 年以上楽しくイエスに沿って通っています。彼らはイエスの教えを聞くことは本当に好きで良かったです。また、彼らは病人を癒されるイエスが好きでした。不治の病人が直ちに癒すのを見ると、確かに不思議で感動的でした。

さらに死んだ人をすぐに生かされるイエスを目撃することは衝撃的でした。イエス様が死んだ少女を生かしました。葬られるために運びされている青年を生かしました。墓に葬られて四日になったラザロを墓から呼び出しました。イエスが好きになったもう一つの理由があります。

このように驚くべき偉大な仕事をなさるイエス様が必ずイスラエルをローマから解放させて王になるのを、弟子たちは信じていました。その日が来れば、弟子たちは皆、高い地位と権威を得ることができるだろうと期待していました。

だから弟子たちは、イエスを本当に好きだったのです。それゆえ基づい通いました。弟子たちがこれらのことにより、イエスを好んだのはあくまでも自己中心的なものでした。

イエスが弟子たちを連れてオリブ山のゲツセマネに向かって行かれました。イエスの弟子たちに言われた**「今夜， あなたがたは 皆わたしにつまずくであろう． 『わたしは 羊飼を 打つ． そして， 羊の 群れは 散らされるであろう 』**と，書いてあるからである」したからです。」としました。ペテロが答えるのを**「みんなの 者があなたにつまずいても， わたしは 決してつまずきません 」**したので、イエスが言われた、**「よくあなたに 言っておく． 今夜， 鶏が 鳴く 前に， あなたは 三度わたしを 知らないというだろう 」と**しました。

するとペテロは、**「たといあなたと 一緒に死なねばならなくなっても， あなたを 知らないなどとは， 決して 申しません 」**すると他の弟子たちも負けじとしてこのように言いました。しかし、イエスはイスカリオテのユダが連れてきた群れで取られると、弟子たち皆が逃げました。イエスをつかまえた人たちがイエスを大祭司カヤパのところへ連れて行ったのです。

ペテロが引かれて行くイエスを遠くに追いつく行って、結末を見てみようと中に入って使用人たちと一緒に座っていました。

ペテロは悲惨な尋問を受けているイエスを胸痛く見ていました。このときにしもべがペテロに近寄って言った、「あなたもガリラヤ人イエスと一緒にいたでしょう」するので、ペテロが否定し言う 「あなたが何を言っているのか分からない。」しました。ペテロが場所を移動なんて、他のしもべが彼を見て言った、「この人はナザレ人イエスと一緒にいました。」するとペテロが誓いながら否定し、「私はその人を知らない。」しました。しばらくそばに立っていた者たちが近づいてきて、ペテロに言った、「あなたも彼らに属している者だ。あなたの言葉遣いを聞いてみると確実である。」しました。今回はペテロが呪いで誓いするのを「私はその人を知らない。」と言うと、すぐに鶏が泣きました。ペテロは「鶏鳴く前に、あなたは三度否定するものである。」となされたイエスの言葉が思い出され外に出て号泣しました。今まで見た場面で、弟子たちが果たしてイエスを愛していたと言えるでしょうか彼らはイエスを好きなのは明らかです。しかし、それはあくまでも自己中心でした。

イエスは予告されたとおり、十字架につけられ死なれ葬られてから三日目に復活しました。復活されたイエス様は、弟子たちが集まった家に二回も現れましたが、まっすぐそれらを離れ去ったのです。ペテロをはじめいくつかの弟子たちがテベリヤの海に魚をとりに行きました。ところが、夜通し網を投げたが、 魚 一匹取れなかった。いつのまにか日が明るくなりました。

その際、復活したイエスは弟子たちを向けて「網を船の右側に投げよそうすれば、 魚をとれるのである。」としました。弟子たちが船の右側に網を投げました網を引き上げることができないほど 魚がたくさん取れました。その瞬間、ヨハネがペテロに、「主である。」と言いました。主という言葉を聞くとシモン・ペテロは上着をかけて海に飛び降り泳いましたが他の弟子たちは、船を漕いで陸に出ました。

イエスがおられる所に行ってみると、そこに炭火があって、その上に魚が置かれでありパンもありました。弟子たちは、実際に、イエスをお会いたので照れくさいペアがありませんでした。

シモン・ペテロはイエスを知らないと三度否認したことによって、その心がすごく重かったという事実、イエスをうかがう面目がありませんでした。イエスは彼らを向けて「来て朝食を食べなさい。」した、弟子たちに近く来てもちもち入れていただいて、魚もいただきました。彼らの朝食を食べた後、イエスの視線がシモン・ペテロを向かい、最終的に口を再び開き、ペテロに質問されました

イエスはペテロに、「ヨハネの子シモンよ、あなたがこの人々より私を愛しているか」と尋ねました。

ペテロが「はい、私は主を愛するのを主がご存じです。」すると私の子羊を食べさせなさい。」としました。イエスは二番目に「ヨハネの子シモンよ、あなたはわたしを愛しますか」しました。「主よ そうです。私は主を愛することを主がご存じです。」わたしの羊を飼いなさい」しました。イエス三番目に 「ヨハネの子シモンよ、あなたはわたしを愛しますか」 主が 三番目にあなたはわたしを愛しますかするので、ペテロが心配して答えを「主よ、私が主を愛することを主ご存じです。」わたしの羊を飼いなさい。」としました。

イエスが海辺に炭火を焚かせておいたものとペテロに同じ質問と主の羊を世話に任務を委任したという言葉を 3 回繰り返した理由は何ですか

イエスがペテロの連想心理を動作させることで、大祭司カヤパの庭と、今のこの現場がオーバーラップされる効果をもたらすしたのです。これは、ペテロの罪悪感をきれいに除去していただくための配慮でした。イエスはペテロに、「あなたは私が好きか」と問わず、「あなたはわたしを愛しているか」と尋ねました。イエスが好きなのに、イエスを愛しことで好きでなければなりません。愛は愛する対象の興味に参加することにして、愛する対象のために喜んで犠牲にしています。ペテロをはじめ弟子たちは、3 年前に「私に従いなさい。」イエスの召しを聞いてから、今日まで続いています。主に従うことが、現在、自分がしていることよりも、現実的に、もより利益になると判断したのです。ところが、復活されたイエスが今ペテロに「私に従いなさい。」と言われたのは、ペテロが好きなのと愛するのと違いを知った後で呼ばれてしました。

イエスは弟子たちを新たな出発点に立てられました。今、イエスが好きな理由の次元が変わりました。心からイエス様を愛するので好きになりますし。イエスのために自分の意志を放棄しなければならないことになると喜んで放棄してどんな犠牲も甘くてもらうことに決めました。

イエスがペテロに言われた、**「よくよくあなたに 言っておく． あなたが 若かった 時には， 自分で 帯をしめて， 思いのままに 歩きまわっていた． しかし 年をとってからは， 自分の 手をのばすことになろう． そして， ほかの 人があなたに 帯を 結びつけ， 行きたくない 所へ 連れて 行くであろう 」**としました。この言葉の意味は、ペテロがどんな死によって神に栄光を帰することを予告したと聖書に説明が敷衍されました。殉教することを予告したのです.

主は、私たち一人一人に「あなたはわたしを愛しているか」と尋ねられます。「あなたが私を好きか」と問わないのです。好きなことは犠牲が全くあるいはあまり必要ではありません。ところが、愛するには必ず犠牲が伴います。使徒パウロは、 **エペソ人への手紙 6 章 24 節に記録するのを「 変らない 眞実をもって， わたしたちの 主 イエス・キリスト を 愛するすべての 人々に， 恵みがあるように」**しました。真の愛は変わらないはずです。豊かで健康で安らかな中でも、主を愛しています。貧しいで病気の問題に直面する時も、主を愛しています。あなたはすべて「私は主イエスを好きだけでなく、本当に愛しています。私は、主のために犠牲にすることを楽しく思っています」と言うことができる聖徒になりますように願います。